

# 聖書 聖書協会共同訳について

聖書 聖書協会共同訳について

2018年12月15日発行

発行 日本聖書協会

©日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5番1号

# 聖書 聖書協会共同訳について

## はじめに

『聖書 聖書協会共同訳』（以下、「聖書協会共同訳」）は二〇一〇年一〇月に翻訳を開始し、二〇一八年一月二九日の聖書協合理事会による出版承認を経て、二〇一八年二月に刊行に至りました。

本小冊子では、「聖書協会共同訳」とはいかなる翻訳聖書なのかを、以下の三つの観点から明らかにしたいと思います。

- 一 新翻訳事業の発足
- 二 新翻訳事業の開始から『聖書 聖書協会共同訳』の刊行まで
- 三 翻訳に関して

## 一 新翻訳事業の発足

### 新共同訳から聖書協会共同訳へ

日本聖書協会が一九八七年に発行した『聖書 新共同訳』（以下、「新共同訳」）は、日本のプロテスタント教会とカトリック教会が初めて共同で発行した「共同訳聖書」(interconfessional Bible translation)として、画期的なものでした。総発行部数は二〇一〇年に二〇〇〇万冊を超え、日本聖書協会が二〇〇五年に実施したアンケート調査では、日本のクリスチャン人口の八〇パーセントが新共同訳を使うか、持っています。教会使用ではカトリック教会を含めて七〇パーセントの教会が新共同訳を採用しています。

一方で、二〇一〇年の『キリスト新聞』のアンケート記事によると、全巻にわたる訳語の不統一性などの指摘が

あり、改善を望む声も聞かれました。この背景には、新共同訳における翻訳方針の揺れがありました。一九六九年に新共同訳の翻訳作業が開始されたときにはE・A・ナイダ（一九一四—二〇一一年）による「動的等価理論」(dynamic-equivalence Bible translation theory)を採用しました。「動的等価理論」は、「ある文章の内容を別の言語で、等価で表現すること」を旨とします。この理論に基づいて翻訳・刊行した『新約聖書 共同訳』（一九七八年）が教会指導者から批判を受け、翻訳理論を「逐語訳」(formal correspondence)に転換したのでした。この転換を示す典型的な例は、マタイによる福音書五章三節の訳です。『新約聖書 共同訳』では「ただ神により頼む人々は、幸いだ。天の国はその人たちのものだから」と訳したのに対し、新共同訳ではこれを「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」と訳したのでした。

日本聖書協会は新共同訳を精査し、次世代に向けて新たにどのような聖書翻訳を目指すべきか検討するために、二〇〇五年一月に翻訳部を新設し、合わせて翻訳理論の研究と、実際の翻訳作業についての調査を行いました。その結果、オランダ聖書協会が二〇〇四年に刊行し、高い評価を得ているオランダ語訳聖書の翻訳作業と、その翻訳理論である「スコポス理論」がモデルとして参考になるとの結論に達しました。そして、「スコポス理論」の主唱者であるオランダ自由大学のローレンス・デ・グリース教授 (Lourens de Vries 一九五五年—) を招いて、直接、「スコポス理論」について学び、このスコポス理論を新しい翻訳聖書の土台とする方針を採用したのでした。

## スコポス理論

では、「スコポス理論」とはどのようなものでしょうか。過去においてはいくつかある翻訳原則のどれが正しいかが議論され、「逐語訳」か「動的等価訳」かが対立的に捉えられてきました。スコポス理論の利点は、翻訳理論を別の視点から捉え直すことにより、翻訳理論の間の対立を乗り越えることを可能にしたことにあります。

「スコポス」とはギリシア語で「目標」を意味し、聖書翻訳理論では「対象読者」(聴衆)と「使用目的」(機能)

を表します。対象読者を未信者とし、使用目的を伝道用とする場合（スコポスA）と、対象読者を高学歴の信者、使用目的を礼拝用とする場合（スコポスB）では、おのずと翻訳原則も異なります。前者（スコポスA）では動的等価訳が、後者（スコポスB）では逐語訳が適切です。スコポス理論は、このように、まず翻訳の「スコポス」を選択し、そこから適切な翻訳方針を決定していこうとするものです。逆に言えば、スコポスをあらかじめ決定するならば、翻訳理論をめぐって動的等価か逐語訳かという選択に関して揺れが生じるようなことはなくなるのです。

### 共同訳事業推進計画諮問会議と「翻訳方針前文」

翻訳事業を開始するに先立ち、日本聖書協会は二〇〇八年六月六日の第一五二回理事会で「共同訳事業推進計画諮問会議」（以下、「諮問会議」）の設置を決議し、国内三一教派・一団体に、各教派・団体を代表する議員の推薦をお願いしました。これに対し一七教派・一団体が議員二二名を推薦してくださいました。この一七教派の信徒数は、当時の日本国内のクリスチャン人口の七五・三パーセントに相当します（『キリスト教年鑑』二〇〇九年版による）。したがって、諮問会議は日本のキリスト教会をほぼ代表しており、そこで出される答申は、日本の諸教会が求める聖書を示すことができま

す。諮問会議では新翻訳事業がスコポス理論に従うことを提案し、新しい聖書翻訳ではいかなるスコポスを選択するかを議論しました。二〇〇九年一〇月六日に開催した最終回（第四回）諮問会議は、新しい翻訳聖書のスコポスが、「礼拝での朗読にふさわしい、格調高く美しい日本語を目指す」ことであると採択し、そのことをまとめた「翻訳方針前文」を日本聖書協合理事会に答申しました。同年一二月四日の聖書協会第一五八回理事評議員会はこの答申を承認して、新翻訳事業の開始が決定しました。「翻訳方針前文」は本冊子の16―17頁に全文を掲載しています。

なお、日本カトリック司教協議会が二〇〇九年度臨時司教総会（二〇一〇年二月）で「聖書の新しい共同訳事業を日本カトリック司教協議会として承認する」との決議を行ったことにより、新翻訳事業は正式に共同訳事業として開

始することができました。日本聖書協会は二〇一〇年三月二日、記者会見を開いて新翻訳事業の開始を発表しました。

## 二 新翻訳事業の開始から『聖書 聖書協会共同訳』刊行まで

新翻訳事業は、事業に参加した一七教派・一団体からの推薦に基づき、翻訳者六二名・編集委員四三名・外部モニター二〇名・検討委員二三名の延べ一四八名によって進められました。翻訳者・編集委員・外部モニター・検討委員の氏名は、本冊子の巻末に掲載しています。カトリックの委員は全一四八名のうち四一名（二八パーセント）でした。翻訳作業には二〇一〇年一〇月の開始から二〇一七年一二月の終了まで、七年余りを要しました。新共同訳の完成には一八年を要しましたので、これは比較的短期間であったと言えます。

### パラテキスト

聖書協会共同訳は新共同訳の改訳ではなく、原文からの新たな翻訳ですので、翻訳の基本的な作業は新共同訳と同じです。訳稿を委員会方式で検討する方法も、新共同訳と変わりません。聖書協会共同訳の作業と、新共同訳の作業の最大の違いは、パラテキスト (ParatExt) と呼ばれる翻訳支援ソフトを用いたことです。パラテキストは、聖書協会世界連盟 (United Bible Societies) と聖書翻訳のための非営利団体である SIL が共同開発したもので、原文と訳文、各種言語の翻訳を同一章節ごとに表示しながら、翻訳作業を進めることができます。編集した訳文は聖書協会世界連盟のサーバに送られ、プロジェクトに参加している翻訳者がサーバに同期することで、最新の状態の訳稿を見ることが可能となります。遠隔地にいる翻訳者が、パラテキストを見ながら、Skype等の通信手段を用いて共同で訳文の検討を進めることもしばしば行われました。

## 翻訳組織

聖書協会共同訳は、新共同訳と同じように、基本的に委員会形式で進められ、その組織は翻訳者、編集委員、外部モニター、検討委員から成ります。翻訳組織について簡単に説明します。

### a 原語担当者と日本語担当者

「礼拝での朗読にふさわしい、格調高く美しい日本語を目指す」という翻訳方針を実現するために、聖書協会共同訳は最初の段階から原語担当者と日本語担当者が協力して訳文の作成に当たりました。新共同訳では、翻訳者四五名に対して国語委員は六名にすぎませんが（比率は九対二）、聖書協会共同訳では、翻訳者六二名のうち原語担当者四三名、日本語担当者一九名（比率は七対三）です。

原語担当者が作成した訳稿が第一稿、日本語担当者がこの第一稿を日本語面から改訂した訳稿が第二稿、両者が話し合って作成した訳稿が第三稿です。以下、翻訳作業のプロセスは、15頁の流れ図をご参照ください。最初の第三稿の話し合いは、二〇一〇年九月七日に開催された第二回翻訳者オリエンテーションの中で行われました。

聖書協会共同訳の日本語担当者には日本語学・日本文学の専門家のほか、詩人や歌人も多く含まれたため、特に旧約聖書の詩文学の訳は、これまでの訳にない格調を備えたものとなりました。

また、日本語担当者の指摘により、聖書協会共同訳では、これまで長く使用されてきたものの、日本語として定着したとは言えないいくつかの用語を変更しました。たとえば、ヘブライ語ナハラ（ハラ）の訳語としての「嗣業」は「相続地」「所有の民」などに、「半部族」は「部族の半数」に変わりました。その結果、これまでの訳に比べ、分かりやすく、読みやすい訳文となりました。

## b 翻訳者委員会

原語担当者と日本語担当者の作成した第三稿は、別の原語担当者と日本語担当者——最終的にこの役割は「翻訳者兼編集委員」が務めることになりました——によるチェックを受け、このコメントを受けて翻訳者委員会が開催されます。翻訳者委員会での検討を終えた訳稿が第四稿です。最初の翻訳者委員会は二〇一三年一月一二日に日本聖書協会で開催された黙示録翻訳者委員会であり、聖書全書の第四稿までの作業が終了したのは二〇一七年五月三一日でした。この間、一五〇回に及ぶ翻訳者委員会が開催され、また、二〇一三年八月から二〇一七年八月まで、春・夏の年二回ずつ、複数の翻訳者委員会を集中して行う翻訳者委員会合宿が、九回、各地のカトリックの黙想の家を会場として開催されました。

## c 朗読チェック

礼拝における朗読にふさわしい訳稿となっているかをチェックするため、第四稿は朗読チェックを受けました。朗読チェックは、初めて訳文に触れる一人の朗読者と、一人の聞き手のペアで行われ、同音異義語、分かりにくい単語、句読点の位置など、気がついた点が指摘されます。この指摘を受けて原語担当者が訳稿を改訂したものが第五稿です。

## d 編集委員会

第五稿は編集委員会で検討されます。編集委員会は、五書・歴史書、詩書・預言書、続編、新約の四委員会に分かれ、それぞれ、翻訳者兼編集委員、聖書学、教義学、日本語、女性の視点、典礼の視点の専門家によって構成されます。編集委員会の検討によって訳稿が改訂されると第六稿となります。

## e 外部モニター

第六稿は、外部モニターによって検討されます。外部モニターは、聖書学・神学の専門家、教職者、日本語の専門

家、一般信徒、学校教師によって構成され、翻訳が翻訳方針に従っているかどうか、訳文に問題がないか、それぞれの立場から意見を述べます。この意見に基づいて再度、編集委員会が訳文を検討したのが第七稿で、これで翻訳作業が終了します。

最初の編集委員会が開催されたのは二〇一四年五月二十四日（第一回詩書・預言書編集委員会）、最後の編集委員会が開催されたのは二〇一七年二月二日（第八回詩書・預言書編集委員会）で、この日をもって第七稿が完成しました。なお、編集委員会は全体で二五回開催されました。

#### f 訳語検討会

翻訳プロセスには含まれていませんが、編集委員会の作業部会として、本事業では旧約、続編、新約に分けて、翻訳者兼編集委員をメンバーとする訳語検討会を開催し、重要な訳語の検討を行い、旧約・続編・新約を通して訳語の統一を図りました。訳語検討会はおもに翻訳者委員会合宿の中で、旧約六回、続編一回、新約五回の、計一二回開催されました。

訳語検討会で提案され、決定した訳語には、上記の「嗣業」のほかに、ヘブライ語のヒンネ、ギリシア語のイドゥーがあります。これまでの聖書はすべて「見よ」と訳されるのが普通でしたが、聖書協会共同訳では、最近の談話分析の研究を踏まえて、省略して訳す場合のほか、文脈によって「さて、そこでは、このとおり、すると」などと訳す方針に改めました。

#### g 検討委員会

以上のプロセスと並行して、検討委員会が七回開催されました（第一回は二〇一〇年九月一五日、最終回は二〇一七年三月一三日に開催）。検討委員会は、新翻訳事業に参加した二七教派・一団体から一名ずつ派遣された委員などから構成され、各教派・団体の意見を反映しつつ、翻訳者委員会・編集委員会だけで解決できない重要な問題

を検討しました。

第七回検討委員会で検討し、聖書協会理事會に答申した重要な訳語は「ツアラアト」と「ピステイス・クリストゥ」の訳語です。これについては後述します。

なお、聖書の各書書名については、検討委員会の委員の意見を踏まえて、新共同訳の書名を変更しないことに決定しました。

## h パイロット版

「パイロット版」の発行は、当初は予定されていませんでしたが、編集を終えた第七稿をより多くの読者に見ていただき、広く意見を求めるために、導入されました。新共同訳においても、いくつかの書のパイロット版を発行する試みは行われましたが、聖書全書のパイロット版を正式な版の刊行前に公にしたのは、聖書協会として初めてのことです。

二〇一五年二月から二〇一八年一月まで、四八分冊、計三三、〇〇〇部を発行し、二六三件、六、八六一の意見が寄せられました。これらの意見も最終訳文を作成する際に参照されました。パイロット版のリリースは二〇一八年三月末をもって終了しています。

## i 書名の決定

検討委員会で議論を経て、「聖書協会共同訳」という書名を最終的に決定したのは、二〇一七年九月八日に開催した二〇一七年度第四回日本聖書協会理事會です。書名決定については二〇一七年一〇月一日のプレスリリースで発表されました。「序文」に示したとおり、この書名は、翻訳と発行に関する責任者という意味で採用されたものです。しかし、「各書の書名や、「統編付き」の扱い、固有名詞（二部の変更を除いて）の表記については、新共同訳を踏襲しています。その意味で、聖書協会共同訳は新たな翻訳ではありませんが、新共同訳のプロテスタントとカトリックの

教会との共同作業を基盤にしたものです」(「序文」)。

### j 女性の貢献

なお、聖書協会共同訳の新共同訳と異なる特記すべき点は、女性の貢献です。新共同訳では全委員九〇名のうち女性には僅か三名(三パーセント)いるにすぎませんでした。聖書協会共同訳では翻訳委員全一四八名のうち女性は三四名(二三パーセント)います。女性の委員の意見を反映して、新共同訳で五三回用いられた「はしため」が、聖書協会共同訳では「仕え女」に変わりました。同じく女性委員の指摘も受け、新共同訳で「お前」が二、八五〇回用いられたのに対し、聖書協会共同訳では、「お前」の使用が世俗的な王が臣下に用いる場合や物・動物に対して用いる場合に限定された結果、使用回数が八六六回に減りました。

## 三 翻訳に関して

### 固有名詞の表記

新共同訳は、一九六九年に設置した聖書訳語委員会の多年にわたる検討の結果、『共同訳聖書の固有名詞の日本語表記——新約聖書——』を一九七六年一〇月に、『共同訳聖書の固有名詞の日本語表記——旧約聖書——』を一九八〇年一月に発表し、これに若干改訂を加えたものが新共同訳によって採用されました。これらの表記は、カトリック教会と共通の「イエス」を含め、各教派共通のものとして用いられ、一般にも定着していると言えます。今回の聖書協会共同訳では、僅かな変更を除いて、新共同訳の固有名詞表記をそのまま用いました。変更したものは以下の一五語です。(五十音順。括弧内は新共同訳での表記。)

アッコ(アコ)  
アッシュルバニバル(オスナバル)  
アブシャロム(アブサロム)  
アレクサンドロス(アレキサンドロス)  
アワ(イワ)  
イツサカル(イサカル)  
エジプト川(エジプトの川)  
エブヤタル(アビアタル)  
ギルアド(ギレアド)  
シェケム(シケム)  
ティグリス(チグリス)  
ネタニヤ(ネタンヤ)  
ビブロス(ゲバル)  
ミデヤン(ミディアン)  
ヨクモアム(ヨクメアム)

### 振り仮名(ルビ)

新共同訳と同様に、聖書協会共同訳も漢字に振り仮名(ルビ)を付けましたが、聖書協会共同訳では、聖書協会発行聖書として初めてすべての数詞にもルビを振りました。数詞の読み方については、NHK放送文化研究所編『NHKことばのハンドブック第2版』(NHK出版、二〇〇五年/二〇一四年第一二刷)に収められた「数字の発音」に

準拠しました。

## 重要な訳語の変更

聖書協会共同訳において最も大きな訳語の変更について、旧約と新約についてそれぞれ一語ずつご紹介します。

一つは旧約におけるヘブライ語ツアラアの訳語です。「ツアラアト」（新約においてはギリシア語訳「レプラ」）については、一九九六年の「らい予防法」の廃止も受け、一九九七年に新共同訳の新約において「らい病」と訳されていたレプラをすべて旧約の訳語に合わせ「重い皮膚病」に改めていましたが、なお同訳語が必ずしも適切なものではないとの指摘を受け、本新訳事業においても当初から検討を続けました。最終的に第七回検討委員会（二〇一七年三月一三日）において、これを「規定の病」とすることで合意して理事会に答申し、日本聖書協会二〇一八年度第三回理事会（二〇一八年六月一日）においてこの答申が承認されました。「規定の病」は「律法で規定された病」を意味し、皮膚だけでなく家や革製品についても同じ訳語を用いることとしました。「規定の病」は「重い」「皮膚」という、原語にない意味を含まない点で、従来の「重い皮膚病」の訳語の持つ課題をある程度解決するものと考えています。レビ記の關係する箇所<sup>の</sup>の訳文は次のようになります。「祭司がその皮膚の患部を調べて、その患部の毛が白く変わり、皮膚の下まで及んでいるなら、それは規定の病である。祭司はそれを確認したら、その人を汚れていると言いつた。」「（レビ記一三三）」「祭司は行つて調べる。家にかびが広がっていたなら、それは家に生じる悪性の規定の病である。その家は汚れている。」（レビ記一四四）

もう一つは新約におけるギリシア語「ピステイス・クリストウ」の訳語です。「ピステイス・クリストウ」の訳については、新訳事業の作業が始まった二〇一〇年から重要な課題となり、事業に参加した諸教派の神学者・牧会的指導者の意見も聴取しながら、検討を重ねました。「ピステイス・クリストウ」は、「キリストへの信仰」と「キリストの真実」の両方の訳が可能です。第七回検討委員会（二〇一七年三月一三日）は、限定した部分に限り主格的属格

の意味で訳すことを承認し、「キリストの真実」とする合意に達しました。「限定した部分」とは、ロマ三22、25、26、ガラ二16、20、三22、エフェ三12、フィリ三9、「神は真実な方」(二コリ一18)などの場合です。ただし、「キリストの真実」と訳した場合も、「キリストへの信仰」の別訳が可能であることを欄外に注記しています。

このうちローマの信徒への手紙第三章について若干の説明をします。パウロは「神の義」について、神は、アブラハムへの約束をイエスの十字架によって果たし、そのキリストを信じる者を義と認めることで、ご自身が義であることを現されたことを述べていると考えられます。21節から26節はその神の義がテーマなので、「神の義が現された」という小見出しを付け、その中で「キリストの真実」と訳しています。これに対して27節以降は、信仰による義認がテーマとなるので、「信仰による義」という小見出しを付け、ここでは、伝統的な「キリストへの信仰」を前面に示す訳となっております。したがって、今回、「キリストの真実」という訳語を採用したからといって、「信仰による義認」というパウロの立場を否定するものではありません。

## 引照と注

聖書協会共同訳の特徴は、「序文」にも示したとおり、日本聖書協会発行の聖書として初めて聖書全体にわたり引照と注を付けた形で最初から発行したことです。このうち引照は新共同訳に付せられたものに基づきます。引照の数は四三、三三三、注の数は四、四一一です。なお、引照と注のない版も、今後、逐次刊行する予定です。

二〇一八年二月

一般財団法人日本聖書協会

理事長 大宮溥

総主事 渡部信

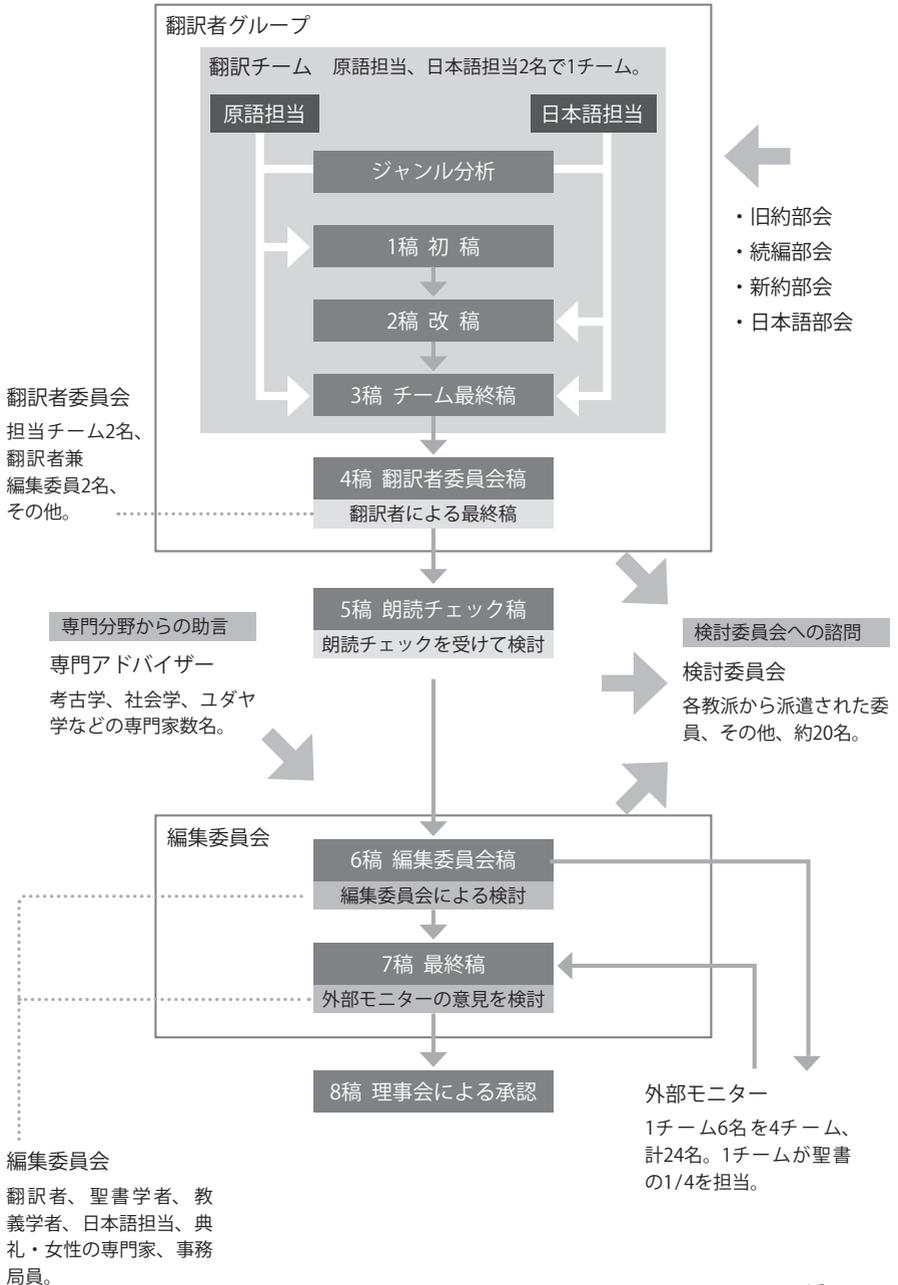
## 参考文献

- 飯謙「近年の聖書翻訳の原則——総論と各論」『旧約学研究』第一三三号（二〇一七年）、七五—八六頁。
- 岩本潤一「聖書新翻訳事業について」『日本カトリック神学院紀要』第八号（二〇一七年）、一一—二二頁。
- 同『聖書 新共同訳』と『聖書 聖書協会共同訳』——どこが違うか『家庭の友』（二〇一八年一月）、四—七頁。
- 教皇庁キリスト教一致推進秘書局／聖書協会世界連盟「聖書翻訳におけるプロテスタントとカトリックの共同作業のための指針（一九八七年改訂版）」『New 聖書翻訳』No. 3（2017.8）、七五—九三頁。
- 『キリスト新聞』二〇一〇年九月一日「新たな翻訳への期待 学者、牧師、有識者ら18人の声」。
- 島先克臣「聖書の翻訳理論と新翻訳事業」『福音と世界』第七一卷第四号（二〇一六年四月）、三七—四三頁。
- 同「新しい翻訳聖書とその特徴」『福音宣教』第七〇巻第一〇号（二〇一六年一月）、二九—三五頁。
- 『聖書事業懇談会講演録1』日本聖書協会、二〇一七年。
- 『聖書事業懇談会講演録2』日本聖書協会、二〇一八年。
- \* 『聖書 聖書協会共同訳 特徴と実例——礼拝にふさわしい聖書を』日本聖書協会、二〇一八年。
- \* 『Sower』No. 32 (August 2008)、日本聖書協会、三—七頁、特集「聖書の翻訳とは」「聖書翻訳ワークショップをふりかえり」。
- \* 『Sower』No. 35 (March 2010)、日本聖書協会、三—七頁、特集「新しい聖書翻訳事業に向けて」。
- \* 『Sower』No. 41 (March 2014)、日本聖書協会、三—七頁、特集「新翻訳事業 標準となる日本語訳聖書を求めて」。
- \* 『Sower』No. 45 (March 2018)、日本聖書協会、三—七頁、特集『聖書 聖書協会共同訳』その背景と特徴」。
- ローレンス・ド・フリス「聖書翻訳と信仰共同体——歴史的、機能的な観点から——」『国際聖書フォーラム 2006 講義録』日本聖書協会、二〇〇六年、一三九—二九〇頁。

『New 聖書翻訳』 No. 1 (2014.5), No. 2 (2015.12), No. 3 (2017.8), No. 4 (2018.7) 日本聖書協会。  
渡部信「日本における聖書翻訳の歩み」上智大学キリスト教文化研究所編『日本における聖書翻訳の歩み』リ  
ン、六三―九五頁。

\* は日本聖書協会HP (<http://www.bible.or.jp/know/know31.html>) でテキストを公開しています。

# 翻訳作業プロセス



## 日本聖書協会新翻訳事業 翻訳方針前文

近代日本における福音宣教の開始後、聖書はいち早く日本語に訳された。それは教会の正典として用いられただけでなく、言語、文学、思想など、日本文化全体の発展にも貢献した。過去の聖書協会による邦訳聖書刊行だけを見て、『明治元訳』（一八八七年）の後、『大正改訳』（一九一七年）、『口語訳』（一九五五年）、『新共同訳』（一九八七年）と、およそ三〇年おきに改訂あるいは新訳がなされている。翻訳作業に一〇年かかるとすれば、『新共同訳』が刊行されて二〇年が過ぎた現在、聖書の新しい訳が検討されるべき時期が来ていると言えよう。実際、過去数十年間に生じた聖書学、翻訳学などの進展、底本の改訂、日本語や日本社会の変化、また『新共同訳』見直しへの要請が、新しい翻訳を求めている。

新しい聖書翻訳は、

- (1) 共同訳事業の延長とし、日本の教会の標準訳聖書となること、また、すべてのキリスト教会での使用を目指す。
- (2) 礼拝で用いることを主要な目的とする。そのため、礼拝での朗読にふさわしい、格調高く美しい日本語訳を目指す。
- (3) 義務教育を終了した日本語能力を持つ人を対象とする。
- (4) 言語と文化の変化に対応し、将来にわたって日本語、日本文化の形成に貢献できることを目指す。
- (5) この数十年における聖書学、翻訳学などの成果に基づき、原典に忠実な翻訳を目指す。底本として、旧約（B HQ）・新約（UBS第5版）・旧約続編（ゲッティンゲン版）など、最新の校訂本をできる限り使用する。
- (6) 文学類型の違いを訳出して原典の持つ力強さを伝達する努力はするが、聖書が神の言葉であることをわきまえ、統一性を保つ視点を失わないこととする。固有名詞や重要な神学用語については『新共同訳』のみならず、過去の諸翻訳も参考にして、最も適切な訳語を得るようにつとめる。

(7) その出版に際して、異読、ならびに地理や文化背景などを説明する注、引照聖句、重要語句を解説する巻末解説、小見出し、章節、地図や年表、などの本文以外の部分は、できる限り様々な組み合わせを考え、読者のニーズに応える努力をする。

上記翻訳方針前文は二〇〇九年一〇月六日の第四回諮問会議にて決議され、日本聖書協会理事会に提出された答申である。諮問会議議員は次のとおり。

### 諮問会議議員（団体名順）

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| ウエスレアン・ホーリネス教団 黒木安信      | 日本キリスト改革派教会 三野孝一 |
| キリスト教学校教育同盟① 寺園喜基        | 日本キリスト教会 三好明     |
| キリスト教学校教育同盟② 山本真司        | 日本ナザレン教団 石田学     |
| 沖繩バプテテスト連盟 喜友名朝順         | 日本バプテテスト同盟 山本富二  |
| 基督兄弟団 池本潔                | 日本バプテテスト連盟 濱野道雄  |
| 救世軍 平本直                  | 日本ルーテル教団 柴田千頭勇   |
| 在日大韓基督教会 朴寿吉             | 日本基督教団① 内藤留幸     |
| 聖イエス会 辻田協二               | 日本基督教団② 中野実      |
| 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 川上良明 | 日本聖公会 興石勇        |
| 日本カトリック司教協議会① 下窄英知       | 日本福音ルーテル教会 鈴木浩   |
| 日本カトリック司教協議会② 岩本潤一       |                  |

『聖書 聖書協会共同訳』 翻訳者・編集委員・検討委員・外部モニター一覧

(五十音順。翻訳者は担当ごとに五十音順。身分は本聖書刊行時)

翻訳者 (六二名)  
旧約担当

- 雨宮 慧 (上智大学神学部名誉教授)  
飯 謙 (神戸女学院院長、神戸女学院大学教授)  
石川 立 (同志社大学神学部教授)  
浦野洋司 (日本カトリック神学院東京キャンパス非常勤講師)  
大澤 香 (神戸女学院大学文学部総合文化学科専任講師)  
大島 力 (青山学院宗教学部長、大学宗教学主任、経済学部教授)  
大住雄一 (東京神学大学教授)  
岡崎才蔵 (シトー会伊万里の聖母トリスチヌ修道院チャプレン)  
小友 聡 (東京神学大学教授、中村町教会牧師)  
楠原博行 (日本基督教団浦賀教会牧師)  
小林 進 (日本聖公会司祭)  
小林祥人 (日本基督教団取手伝道所牧師、日本聖書神学校非常勤講師)  
左近 豊 (青山学院大学国際政治経済学部教授、宗教学主任、日本基督教団美竹教会担任教師)  
杉江拓磨 (立教大学兼任講師)  
高橋洋成 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員)  
谷川政美 (古代語研究会主宰)  
樋口 進 (夙川学院院長、同短期大学特任教授)  
柘 暁生 (カトリック司祭)  
本間敏雄 (日本基督教団新栄教会牧師、東京神学大学非常勤講師)  
山森みか (テル・アヴィヴ大学人文学部東アジア学科学科講師)  
山吉智久 (北星学園大学経済学部准教授)

## 続編担当

- 阿部 包 (藤女子大学特任教授・名誉教授、同大学キリスト教文化研究所所長)  
岩本潤一 (前日本カトリック司教協議会エキュメニズム部門研究委員、現日本聖書協会編集部主任)  
川崎千里 (Centre Sevres - Facultés jésuites de Paris 哲学部博士課程)  
高橋英海 (東京大学大学院総合文化研究科教授)  
竹内一也 (日本聖公会横浜教区横浜山手聖公会牧師、聖公会神学院非常勤講師)  
出村みや子 (東北学院大学文学部総合人文学科教授)  
戸田 聡 (北海道大学大学院文学研究科准教授)  
中村秀樹 (A. Keresztényi Lelkiség Kutatóintézet, Budapest 所属・宣教師)  
山下 敦 (カトリック大分教区司祭、日本カトリック神学院講師)  
吉田 新 (東北学院大学文学部総合人文学科准教授)

## 新約担当

- 浅野淳博 (関西学院大学神学部教授)  
阿部 包 (藤女子大学特任教授・名誉教授、同大学キリスト教文化研究所所長)  
川中 仁 (上智大学神学部教授、同大学神学部長)  
菅原裕治 (日本聖公会聖バトリック教会牧師、日本聖書神学校教授)  
須藤伊知郎 (西南学院大学神学部教授)  
住谷 眞 (日本キリスト教会茅ヶ崎東教会牧師、同神学校主任講師)  
武田なほみ (上智大学神学部教授)  
辻 学 (広島大学大学院総合科学研究科教授)  
津村春英 (大阪キリスト教短期大学元学長、大阪日本橋キリスト教会牧師)  
中野 実 (東京神学大学教授)  
布川悦子 (聖公会神学院、立教女学院短期大学非常勤講師)  
三浦 望 (ポストン・カレッジ研究員)  
嶺重 淑 (関西学院大学人間福祉学部教授)  
吉田 新 (東北学院大学文学部総合人文学科准教授)

## 日本語担当

- 石黒 圭 (国立国語研究所教授、一橋大学大学院連携教授)  
石原真 (与勝バプテスタ教会牧師)

岡野絵里子（詩人、元淑徳大学公開講座講師）  
春日いづみ（歌人、日本歌人クラブ中央幹事、現代歌人協会会員）  
木鎌耕一郎（八戸学院大学健康医療学部教授）  
酒井一郎（童謡作家）

佐藤裕子（フェリス女学院大学文学部日本語日本文学科教授）  
柴崎 聰（詩人、日本聖書神学校講師）

杉内峰彦（藤女子大学文学部文化総合学科学科准教授）

高梨信乃（関西大学外国語学部教授）

高橋由美子（上智大学外国語学部教授）

新延 拳（詩人、日本現代詩人会前理事長）

西脇 純（宗教学人聖グレゴリオの家宗教音楽研究所専任講師）

芳賀繁浩（日本キリスト教会豊島北教会牧師、同神学校講師）

畠山 寛（駒澤大学総合教育研究部外国語第二部門准教授）

前川齋子（歌人）

松永美穂（早稲田大学文学学術院教授）

持田鋼一郎（作家、歌人、翻訳家、日本文芸家協会会員）

饒平名尚子（フェリス女学院大学文学部英語英米文学科教授）

### 編集委員（四三名）（\*印は翻訳者兼編集委員）

#### 聖書全体

宮越俊光（日本カトリック典礼委員会秘書）

#### 旧約全体

石黒 圭（国立国語研究所教授、一橋大学大学院連携教授）

金丸英子（西南学院大学神学部教授）

#### 五書・歴史書

池田 裕（筑波大学名誉教授）

大澤 香\*（神戸女学院大学文学部総合文化学科専任講師）

岡崎才蔵\*（シトー会伊万里の聖母トラピスチヌ修道院チャプレン）

佐藤裕子\*（フェリス女学院大学文学部日本語日本文学科教授）

鈴木佳秀（フェリス女学院学院長）

高橋洋成\*（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特任研究員）

新延 拳（詩人、日本現代詩人会前理事長）

柗 暁生\*（カトリック司祭）

## 詩書・預言書

飯 謙\*（神戸女学院院長、神戸女学院大学教授）

石川 立\*（同志社大学神学部教授）

浦野洋司\*（日本カトリック神学院東京キャンパス非常勤講師）

岡野絵里子\*（詩人、元淑徳大学公開講座講師）

小友 聡\*（東京神学大学教授、中村町教会牧師）

春日いづみ\*（歌人、日本歌人クラブ中央幹事、現代歌人協会会員）

田部郁彦（日本キリスト教会西都教会牧師）

月本昭男（上智大学神学部特任教授）

林あまり（歌人、演劇評論家）

樋口 進\*（夙川学院院長、同短期大学特任教授）

広田勝一（日本聖公会北関東教区主教、立教学院院長）

## 続編

秋山 学（筑波大学人文社会系教授）

阿部 忍（神戸山手大学現代社会学部准教授）

岩島忠彦（上智大学神学部名誉教授）

川中子義勝（東京大学名誉教授、(株)日本詩人クラブ会長）

柴崎 聡\*（詩人、日本聖書神学校講師）

手塚奈々子（明治学院大学経済学部国際経営学科教授）

戸田 聡\*（北海道大学大学院文学研究科准教授）

増田祐志（元上智大学神学部教授）

吉田 新\*（東北学院大学文学部総合人文学科准教授）

## 新約

阿部 包\*（藤女子大学特任教授・名誉教授、同大学キリスト教文化研究所所長）

阿部 忍（神戸山手大学現代社会学部准教授）

鈴木 浩 (ルーテル学院大学名誉教授、日本ルーテル神学校名誉教授)  
住谷 眞\* (日本キリスト教会茅ヶ崎東教会牧師、同神学校主任講師)  
高梨信乃\* (関西大学外国語学部教授)  
土戸 清 (日本新約学会前会長、大森めぐみ教会名誉牧師、国際新約聖書学会名誉終身会員)  
津村春英\* (大阪キリスト教短期大学元学長、大阪日本橋キリスト教会牧師)  
出村みや子 (東北学院大学文学部総合人文学科教授)  
富岡幸一郎 (関東学院大学国際文化学部比較文化学教科教授、鎌倉文学館館長)  
芳賀繁浩\* (日本キリスト教会豊島北教会牧師、同神学校講師)  
廣石 望 (立教大学文学部キリスト教学科教授)  
深井智朗 (東洋英和女学院院長、東洋英和女学院人間科学部教授)

### 検討委員 (二三名) (身分の次の括弧内は派遣教団・団体名)

阿久戸光晴 (福岡女学院大学・福岡女学院大学短期大学部学長) (日本基督教団)  
石田 学 (小山ナザレン教会牧師、日本ナザレン神学校校長) (日本ナザレン教団)  
岩城 聰 (聖公会大阪教区司祭) (日本聖公会)  
江本真理 (竹の塚ルーテル教会牧師) (日本ルーテル教団)  
大長幸一郎 (牧港中央バプテスト教会協力牧師、沖縄聖書神学校教師) (沖縄バプテスト連盟)  
金丸英子 (西南学院大学神学部教授) (日本バプテスト連盟)  
金 性済 (日本キリスト教協議会総幹事) (在日大韓基督教会)  
喜友名朝順 (二〇一五年三月まで沖縄バプテスト連盟理事、東風平バプテスト教会牧師。二〇一五年三月没) (沖縄バプテスト連盟)  
黒木安信 (二〇一五年二月までウエスレアン・ホーリネス神学院院长、浅草橋教会牧師。二〇一五年二月没) (ウエスレアン・ホーリネス教団)  
佐藤捷雄 (聖イエス会ロゴス神学院元教授) (聖イエス会)  
島しづ子 (特定非営利活動法人愛実の会理事長) (愛実の会)  
鈴木 浩 (ルーテル学院大学名誉教授、日本ルーテル神学校名誉教授) (日本福音ルーテル教会)  
高見三明 (カトリック長崎大司教区大司教) (日本カトリック司教協議会)  
寺園喜基 (福岡女学院院长) (キリスト教学校教育同盟)  
中島真実 (東海聖書神学塾教師、基督兄弟団一宮教会牧師) (基督兄弟団)  
野島邦夫 (国立聖書教会牧師) (日本キリスト改革派教会)  
本間尊広 (ウエスレアン・ホーリネス神学院教師、玉川キリスト中央教会牧師) (ウエスレアン・ホーリネス教団)

丸畑幸夫（救世軍士官学校講師）（救世軍）

三好 明（日本キリスト教会志木北伝道所牧師、同神学校旧約学主任講師）（日本キリスト教会）

山口里子（日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター、日本聖書神学校、聖公会神学院、恵泉女学園大学、聖心女子大学の元講師、  
農村伝道神学校講師）（日本フェミニスト神学・宣教センター）

山本真司（同志社国際中学校・高等学校チャプレン、キリスト教学校教育同盟聖書科部会全国委員長）（キリスト教学校教育同盟）

山本富二（日本バプテスト同盟磯子の丘教会牧師）（日本バプテスト同盟）

和田幹男（カトリック関目教会主任司祭、日本カトリック神学院聖書学講師）（日本カトリック司教協議会）

## 外部モニター（二〇名）

秋元美晴（恵泉女学園大学名誉教授）

石井砂母亜（跡見学園中学校高等学校社会科教諭、青山学院大学、立教大学、ルーテル学院大学非常勤講師）

石橋誠一（日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師、西南学院大学非常勤講師、九州バプテスト神学校講師）

梅村昌弘（カトリック横浜司教区司教）

エイカーズ愛（日本バプテスト連盟小樽バプテスト教会牧師）

岡田武夫（カトリック東京教区本郷教会協力司祭）

小野寺友実（キリスト教愛真高等学校国語科教諭）

加藤常昭（正教師（隠退））

川口菜穂美（近江兄弟社高等学校社会科教諭）

幸田和生（カトリック東京大司教区名誉司教）

澤村信蔵（基督兄弟団成増教会牧師）

手島佑郎（ギルボア研究所代表）

中井珠恵（上智大学グリーンフックア研究所非常勤講師、市立川西病院病院カウンセラー）

鍋谷堯爾（神戸ルーテル神学校教授）

西出佳菜（同志社国際中学校・高等学校国語科教諭）

芳賀 力（東京神学大学教授、日本基督教団正教師）

東谷清貴（日本ルーテル神学校学生）

三上 梓（西南学院中学校宗教主任）

山我哲雄（北星学園大学教授、日本旧約学会前会長）

山本真司（同志社国際中学校・高等学校チャプレン、日本基督教団正教師）





9784820292685

ISBN978-4-8202-9268-5

C0016 ¥100E



1920016001008

聖書 聖書協会共同訳について

定価(本体100円+税)

日本聖書協会

